



# アントレプレナーファイナンス に関する実証研究

大学院 経営管理研究科  
准教授 高橋 陽二（たかはし ようじ）

連絡先 県立広島大学 広島キャンパス 1473 号室  
E-mail y\_takahashi@pu-hiroshima.ac.jp  
\* @は半角に置き換えてください。



専門分野： アントレプレナー/ベンチャーファイナンス、コーポレートファイナンス、コーポレートガバナンス、アントレプレナーシップ

キーワード： 新規株式公開（IPO）、ベンチャーキャピタル（VC）、投資家センチメント、個人投資家、アンダーライター（引受証券会社）、アロケーション（配分、割当）、オープン・イノベーション

## ● 現在の研究について

これまで、多面的なアプローチによって、アントレプレナー/ベンチャーファイナンスに関する多くの課題に取り組んできた。とりわけ、新規株式公開（IPO）、ベンチャーキャピタル（VC）を対象とした実証研究が中心である。

具体的には、(1) IPO 研究ではあまり考慮されてこなかった IPO 直後の初値形成、(2) IPO の価格形成と所在地の関係、(3) 役員派遣を伴うハンズオン投資の現状と課題、(4) 入札情報、および(5) インターネット掲示板の情報を活用した投資家センチメントと IPO の価格形成、(6) IPO 企業の取締役構成の決定要因に関する研究、(7) リアル・オプションの有用性および研究動向の総括、(8) ファイナンスの視点からオープン・イノベーションの考察、などである。

現在、上記の研究課題に加えて、IPO 時の機関投資家と個人投資家の役割を実証的に分析している（科学研究費補助金・若手研究 B 採択）。具体的には、(1) アンダーライター（引受証券会社）による情報生産プロセス、(2) アンダーライターによる株式のアロケーション（配分、割当）を通じて、機関投資家と個人投資家の役割を検討している。

また、関西学院大学の阿萬弘行教授と共同で、日本の投資信託を対象に、(1) 過去業績のシグナル効果、(2) 供給側の市場構造の影響について検討している（2018 年度信託研究奨励金採択）。

## ● 今後進めていきたい研究について

先に示した、現在の研究を継続的に取り組むことが中心になるが、今後の研究課題として、IPO 企業のガバナンス構造、クラスター（産業集積）、オープン・イノベーションについても関心を持っていることから、継続的に関連分野の研究活動をフォローしたい。

また、広島という地域の視点から、コーポレートファイナンス、アントレプレナーシップを再考察したうえで、広島の現状と統合的な、新たな研究課題に取り組みたいと考えている。

## ● 地域・社会と連携して進めたい内容

広島のコーポレートファイナンスおよびアントレプレナーシップに関する実務的課題と教育、アカデミックベンチャーの課題について、地域・社会と連携したうえで検討したい。

しかし、現状では、必ずしも広島の地域課題が明確ではないことから、大学院経営管理研究科（HBMS）所属の社会人院生との交流など、地域・社会との関係を構築しながら、深めるべき課題を再検討したい。

## ● これまでの連携実績

広島県が運営している、イノベーション・ハブ・ひろしま Camps（キャンパス）との連携を深めるべく、様々な活動に参加、協力している（2018 年 10 月、Meet Up Camps にてファイナンスをテーマに講演した）。

また、昨年度から、広島県商工労働局補助金等審査会（イノベーション人材等育成部会）委員として活動している。